都留市寺記

十日市場

曹洞宗　長沢山自得院　宝鏡寺末

本尊由緒

本尊は虚空蔵菩薩木像坐体で像長39.2cm、彫刻者は不詳。創立開山一株宗易和尚堂宇建立の節、文明十八年八月十四日勧請された。

合祀仏

十一面観世音菩薩木像坐体寄木、承和元年空海の作と伝えられている。像長20.5cm　膝張り13cm　面長45cm　面巾35cm　玉眼　観世音菩薩木像坐体、像長24.2cm

毘沙門天木像立体、像長41cm、裾張り22cm

不動明王木像立体、像長39cm　裾張り14cm　右三体は文化八年一月万蔵院へ堀口久五郎氏が奉納したものであるが、明治七年五月該院は当院へ統合につき合祀された。

自得院　本堂

興起縁由

文明十八年八月十四日は、此の地へ創立開山一株宗易和尚黄巻赤軸を埋め経塚を成し、その記念に一寺を建立号して経塚山と称した。明治七年五月隣寺長沢山万蔵院を合併、

長沢山自得院と改称す。

開山履歴

創立開山一株宗易は、武田出羽守信胤の第一子宗胤の三男で正長元年六月二十日誕生、永享十三年八月十日剃髪。享徳三年五月十五日宝鏡寺三世天融義通について嗣法、文明五年八月二十八日鹿留西方寺を開創、文明十三年五月三日境真言宗泉福寺を再興し泉福院と改称、文明十八年八月十四日自得院を創立し、永正十一年五月十六日世寿八十七歳にて示寂す。

中興開山貴翁牛尊は、郡内明見村の武藤某の人にして、文禄四年八月五日誕生、慶長七年九月三日得度、寛永六年七月二十五日宝鏡寺十一世根外龍道について嗣法、宝鏡寺十二世に列し、のち当院中興開山となる。

伝法始祖開山密雲環溪は、士族越後国頸城郡高田町細谷文平二男として文化十四年二月八日誕生。文政十一年二月十五日彦根町清涼寺賢光について剃髪、天保十四年九月十日宇治町正法寺に首先住職、弘化元年八月大本山永平寺に登謁し更衣勅許、嘉永三年三月河内国岸和田村長福寺に転住、安政元年六月武蔵国豪徳寺に転住、慶応三年八月山城国宇治町興聖寺へ転住、明治四年十月大本山永平寺六十一世に登列、明治十一年四月三日自得院伝法始祖開山となる。

明治十七年四月五日武蔵国西ヶ原村少林寺において世寿六十八才にして示寂す。

結構規模

〔本堂〕木造トタン葺53×73K　天保十一年再建

〔開山堂〕木造3×3K　昭和三年建設

〔庫裡〕木造トタン葺43K×6K　明治二十五年再建

〔玄関〕五坪　昭和三年建設　〔経蔵〕昭和四十一年建設

〔付属建物〕物置、東司、水事場、等

歴代住職

創立開山一株宗易―一樹良株―棟雲全梁―浄山禅清―龍山義尊―沢源恵恩―得旨万悟。

中興開山貴翁牛尊―軌洲魯範―義証了玄―仁証舟寛―台岩泰鏡―哲翁文英―丈亮文器―洞雲義全。

伝法始祖法地開山絶学天真禅師密雲環溪―二世真龍禅国―三世万芳亮潭―四世祖堂大信―五世恵鑑白弁―六世洞雲国清―七世雲外良痴―八世大法穆臣（現住）

古器、什器、宝物

袈裟一肩　紺地金襴　明治十一年四月三日大本山永平寺六十一世絶学禅師伝附。

大般若経六百巻　元治元年八月万蔵院七世代求　明治七年当寺へ納経

涅槃画像一軸　天保十年二月十五日求

十六善神画像一軸　元治元年四月八日求

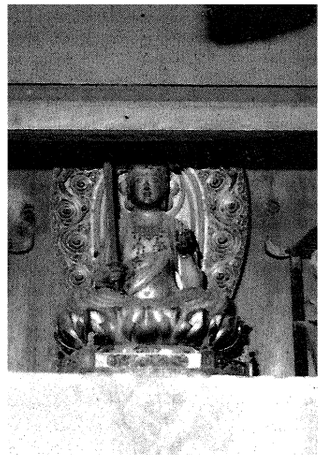
石仏

七地蔵尊　一基。

恒例宗教行事

毎月一日、十五日　祝延祈願　一月一日、二日、三日

大般若転読　一月十三日　虚空蔵会　三月二十四日　祠堂経　春彼岸会　四月五日　伝法開山忌　五月二十六日創立開山忌　七月十日　観世音菩薩法要　八月四日　大施餓鬼会　宇蘭盆会　祠堂経　八月二十三日　中興開山忌　九月　秋彼岸会　九月二十四日　祠堂経　三仏会二祖忌等



自得院　本尊

十日市場

曹洞宗　水源山永寿院　宝鏡寺末

本尊由緒

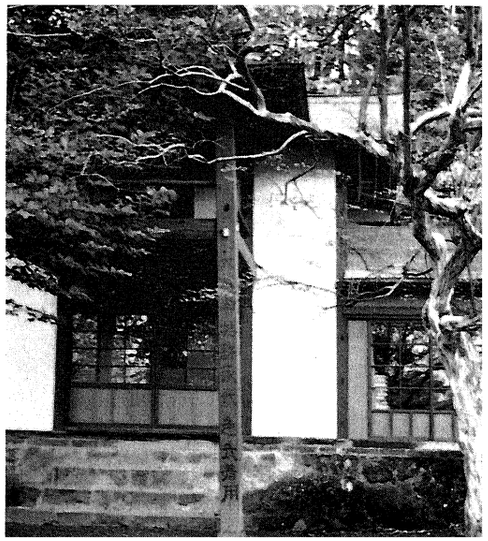
本尊は阿弥陀如来木像立体で像長76㎝、裾張り23㎝、天文九年二月二日直翁宗正和尚彫刻し安置すと伝えられている。

合祀仏

達磨大師、大権修利菩薩共に享保七年十月五日、光月智恩代に安置作者は不詳である。

興起縁由

延暦十九年弘法大師空海の開創と伝えられている。即ち同年



永寿院　本堂

富士山大噴火の際の遭難者供養のため一寺を建立し、最勝護国院と称して自ら最勝護国弁財天の尊像を彫刻安置された霊場であるといわれている。従って開創時は真言宗で本尊は最勝護国弁財天。厨子入り、厨子高50㎝、弁財天像長8㎝、脇侍は愛染明王、無量寿仏である。

天文九年二月二日宝鏡寺八世直翁宗正和尚が曹洞宗に改宗し当院の開山となる。寺記に「弥陀の霊夢に清泉の湧出るありと按に懇地西隅の岩際より麗水湧出なるに誓願し弥弥の尊体を入仏し水の源なるを以て水源山と云い、永く無量の寿水汲来ん事を祝言し寺号を永寿院と起立す」と記録されている。

開山履歴

直翁宗正の姓は、北条氏業四男として永正八年四月八日誕生。大永三年三月十四日剃髪、天文七年九月三日宝鏡七世晦翁宗朔について嗣法。天文九年二月二日永寿院を改宗し開山となり、同年十月二十日宝鏡寺八世として遷住す。

結構規模

宝永四年自雲良由時代火災のため焼却、正徳元年三月再建。大正八年十月二十日本堂を現在地に移築。大正十三年九月庫裡改築

〔本堂〕木造二階建トタン葺 3K×23K。〔玄関〕木造トタン葺 2K×2K。〔庫裡〕木造平屋トタン葺 5K×4K。

付属建物

大宰府神社（天満大自在天神）天保二年四月二日起工し、同十年四月二日落成。

経蔵昭和二年神光普照建立す。

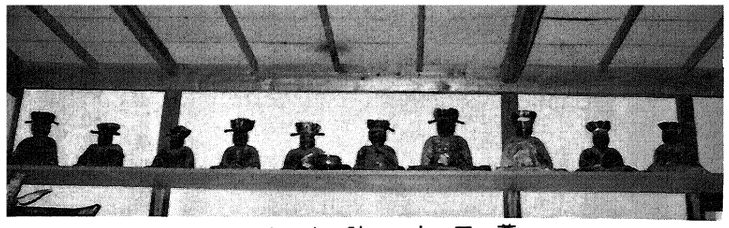
歴代住職

当山開祖弘法大師　延暦十九年開創。　当山改宗開山直翁宗正（宝鏡寺八世 天文二十一年十一月二十日寂（?））――二世　聖刹州梵――三世　梵了道天――四世　廓翁良然――五世　保山永寿――六世　空室桂牛――七世　自雲良由――八世　光月智恩――九世　松韻智岩――十世　三明学要――十一世　大安了徹――十二世　観月松音――十三世　三学隆明――十四世　蘭庭秀光――十五世　大法祖伝（明治三十年田津院へ転住す。）――十六世　神光普照――十七世　養禅浩気――十八世　祖岳浩道（現住）

開山の示寂年月日当院寺記と宝鏡寺の寺記とに差異があるけれど何れが正しいかつまびらかでない。

仏像

十王仏、十日市場上の山に十王堂ありしが、風損破壊甚しく、宝鏡二十二世真光謙宗和尚が当院に安置した。



永寿院　十王尊

地蔵菩薩　石造仏立体　二体　御丈共に五尺二寸

延暦十九年富士噴火及び宝永四年富士噴火の折造立されたもので、十王堂前に安置されてあったものを、真光謙宗和尚によって当院境内に移されたものである。

永寿院　本尊

恒例宗教行事

春秋彼岸会八月施餓鬼会　十一月開山忌

薬師如来、木仏坐像、康正二年八月四日太補宗睦僧によって月四日太補宗睦僧によって勧請。彫刻者不詳。像長39.3㎝

合祀仏

観世音菩薩、木仏坐像、像長39.3㎝、明徳年間此の地に棲月院と称する観音堂があり、その本尊であったものを、康正二年八月四日当院創開の際合祀した。

棲月院　本堂

興起縁由

太補宗睦僧の創開にして、姓は武田出羽守信胤第一子宗胤の二男宗睦である。人皇百三代称光院の御宇応永三十二年四月九日誕生、永享七年武蔵国高麗郡越生の郷龍穏寺大鐘良賀に入剃度し、遍歴二十年、享徳三年五月甲斐国南都留

十日市場

曹洞宗　日向山棲月院　宝鏡寺末

本尊由緒

郡桂村夏狩宝鏡寺第三世天融義通の嗣法す。康正二年八月四日同村十日市場字日向山に一宇の長福院と号する薬師の精舎あるを、現在地に移転し、棲月院を廃し長福院と改めた。明応元年二月十五日寂享保二年再び固有の棲月院に改称した。

開山履歴

開山根外龍道和尚、俗姓は原美濃守虎胤入道清岩にして、元下総浪人で武田家に仕えた。嫡子外道永禄四年、甲信の乱後仏門に志し、永禄十一年十二才にして夏狩宝鏡寺第九世体岩堯道に入剃髪。慶長二年四月八日同寺第十世然室牛廓に入法嗣。　五年八月十五日開基宗睦僧道場を一刹の精舎とし開山となる。　十八年二月宝鏡寺第十一世住職となる。

伝法始祖挙一明三和尚は、尾張中納言殿、藩中名護屋城重松利三良長男嘉重、文化五年三月三日誕生、文政元年二月八日同国春日井郡小木村世尊寺大鵬賢明に就て十一才で剃髪。天保五年八月二十八日桂村倉見宝養寺大安悦仙に就て嗣法、天保八年三月二日同寺住職、同十年七月十八日西方寺移住弘化二年三月十五日武蔵国入間郡善能寺村善応寺へ転住、嘉永元年九月十五日夏狩宝鏡寺第二十四世住職となる。安政元年七月浜松普済寺輪番住職、同二年八月帰寺、文久元年十一月十五日十日市場棲月院伝法始祖となる。

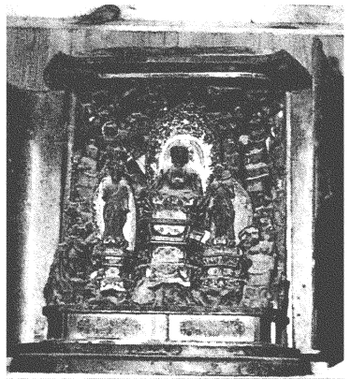
結構規模

〔本堂〕木造寄せ棟トタン葺6K×5K。
〔庫裡〕木造平屋トタン葺4K×7K。

歴代住職

開山	根外龍道	宝鏡寺十一世 長得院開山	寛永十二乙亥年正月二日寂
二世	快岳文慶		正保元年十月五日寂
三世	芳通機範		寛文十二年十一月十一日寂
四世	不学了伝		延宝五年二月十五日寂
五世	詳山良瑞		元禄三年五月六日寂
六世	普岳智明		元禄十五年八月十二日寂
七世	範桂牛摸		享保二年十月二十七日寂
八世	活山肝龍		享保十八年三月九日寂
九世	超岸法全		宝暦十一年十月三日寂
十世	大円玄了		文化四年十一月十八日寂
十一世	鉄翁楚鞋		文化十三年四月二十三日寂
十二世	実宗良仙		天保八年五月二十六日寂
十三世	智巌子循		文久三年正月十五日寂
伝法始祖	挙一明三		明治十四年十二月四日寂
二世	大器鼎山		明治三十二年九月二十八日寂
三世	明法耕三		不詳

四世　祖山道隣　昭和三十年四月十一日寂
五世　円明大鑑　昭和三十四年八月三十日寂
六世　臼井弘豊
七世　円通弘成　（現住）



棲月院　本尊

恒例宗教行事

春秋彼岸会　宇蘭盆会　施餓鬼会

十日市場

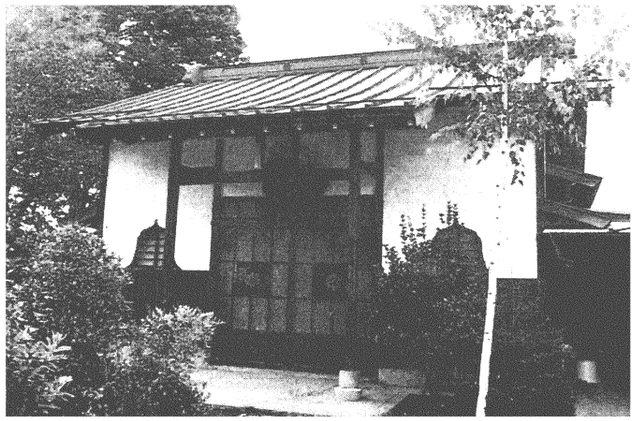
曹洞宗　金王山光彩院　宝鏡寺末

本尊由緒

本尊は地蔵菩薩にして木仏立像である。像長75㎝、裾張り22㎝、面長13㎝、面巾8㎝、

興起縁由

後水尾天皇元和元年（一六一五）開基幸安僧によって創建。



光彩院　本堂

ともに全焼。昭和四十三年中央高速道の開通に伴い現在のものに改築された。

歴代住職

開山	洲岩宣揚	宝鏡寺十三世	耕雲院三世　元禄十一年十一月十一日寂
二世 伝法始祖	挙一明三	宝鏡二十四世 明治十五年一月一日寂	棲月伝法始祖　西方寺十世
三世	南齢泰順		明治十七年六月十三日寂
四世	釈氏国清		大正十四年十一月十七日寂

但し詳細は不明である。

開山履歴

開山は宝鏡寺十三世洲岩宣揚大和尚で、元禄十一戊寅年十一月十一日示寂されている。

結構規模

明治十七年六月十三日の大火により、本堂庫裡

五世　万山養全
六世　徹道大応　牧丘洞雲寺へ遷住、姓谷山。
七世　大道知覚
八世　大知直秀　現住

伝法始祖挙一明三の示寂が、棲月院は明治十四年十二月四日とあり、当院は明治十五年一月一日、宝鏡寺、西方寺においては不詳とあり何れが正しいか不明である。

恒例宗教行事

八月六日施餓鬼会、春秋彼岸会。

光彩院　本尊

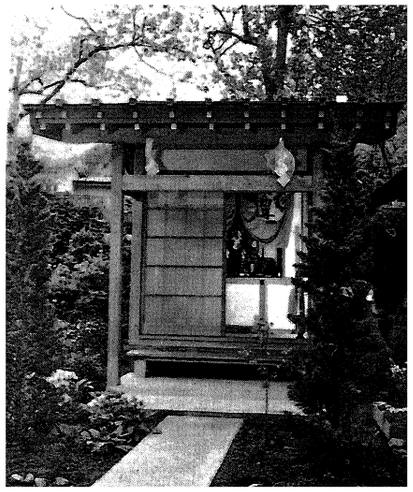
十日市場

真言宗　市神山龍泉寺

京都醍醐三宝院末

本尊由緒

本尊不動明王木像坐体像長（32㎝）開祖覚龍房久勝、頼朝卿に仕官し、建久四年頼朝公富士巻狩に供奉し、同年五月二十八日夏狩村韮垣戸へ落来り剃髪して我が守尊として安置し奉る。



竜泉寺　堂宇

合祀尊　征夷大将軍武運長久幕下諸士善願円満牌
今上皇帝宝祚長遠御願円満牌
醍醐御門主宮中安穏御末派繁茂広度衆生牌
右三牌開祖より勧請す。

興起縁由

田村源太郎久勝　幼名吉田丸建久四年頼朝公富士巻狩に供奉し、同年五月二十八日久勝病身となり、夏狩村十日市場韮垣戸へ落来り、久勝堂を建て剃髪し修験行者覚龍房久勝と称した。源氏武運長久のため市神正如意輪を勧請す。

その頃本村は夏狩村であったが、文禄三年検地より分村し十日市場村となる。市神祭典十日をとり市神の市をとり十日市と称し山号を市神山という。

結構規模

古は韮垣戸と市神社に開祖の境内があったけれど、高地故烈風などのため住み難く、元和九年亥年橋場天王社へ移る。

境内壱畝廿七歩。

文政七年六月、当山十九世覚誉代火災のため堂宇焼失、同年祠堂梁行六間桁行四間を再建。明治九年四月堂宇住宅悉く焼失、同年八月堂宇梁行三間桁行二間半再び建立す。

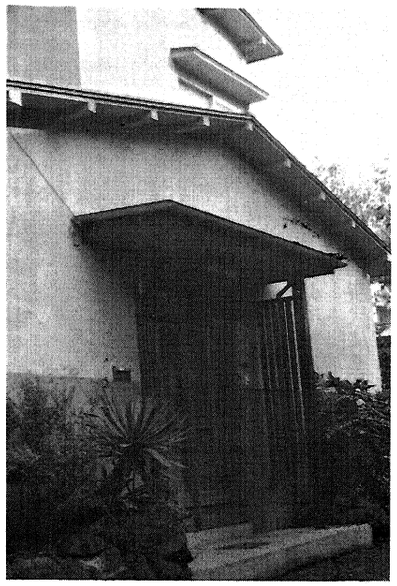
現在住宅二七坪　昭和四十五年造営

現在堂宇（1K×15K）　昭和五十年三月造営

歴代住職

開祖覚龍房久勝　貞永元辰七月十日寂　世寿九十七才
二代大峠房覚隆―三代大泉房覚道―四代大政房綱俊―五代頼正房満信―六代大行房義覚―七代大合院頼乗―八代仲光房国祐―九代大滝行者源浄―十代覚宝院信鑊―十一代覚宝院源達―十二代般若院秀達―十三代大合院順達―十四代天主院梅顔―十五代大合院明照―十六代大合院広智―十七代般若院覚智―十八代大合院覚雄―十九代不動院覚誉―二十代大合院覚応―二十一代不動院覚祥―二十二代山本覚応―二十三代山本秀雄（現住）　（以上当山寺記による。）

現在は名儀のみで宗教活動をしていない。



竜泉寺　住宅